



## 『鍛冶屋2300年』

11月8日は『ふいご祭』。各地の神社や鍛冶屋で、今も祭がとり行われています。関ヶ原に近い岐阜県不破郡垂井町の南宮大社の祭は有名で刀鍛冶の古式鍛錬などが催され、全国から鍛冶屋や鋳物師、一般の人など10万人以上も参拝するそうです。祭神は金山彦命、社殿には刀鍛冶をはじめ、鋸鍛冶・鉋鍛冶などの製品や製造工程を示す絵馬がたくさん奉納されています。写真は、東京南宮会と称する刀鍛冶達が昭和44年に奉納した、鍛刀工程を表わした絵馬です。

ところで、鍛冶屋はいつ頃生まれたのでしょうか。又、どんなものを作り、どのように変化していったのでしょうか。こんな疑問と変遷を独断と偏見で綴って行きます。どうぞお楽しみに。

鍛冶屋が生まれて2300年、米づくりとともに始まりました。弥生時代(BC 300~AD 300)大陸から稲作が伝わり、それに必要な道具(金属器・木器)も人々と共に上陸しました。北九州から始まった稲作は300年ほどの間に全国に広まり、縄文時代とは異なった時代が到来します。それは、安定した米の生産により食料に困らない時代のはじまりです。

稲作を中心にした弥生時代は米づくりを通じて、1年間が計画的に推移し、経済的・時間的ゆとりが生まれたのです。その結果、余った『もみ』をたくさん蓄える富める者と貧しい者の差が生まれます。富める人はもっと豊かになるために、道具や神を祭る祭器を作る人を招いたり養成したりします。そして、高温を扱う専門家、鍛冶屋や鋳物師・土師が生まれました。彼等はムラの人たちが使う為の農具や祭器を作るようになりました。それらは、鉄斧・鋤・鍬であり、銅鐸、土器です。

豊かなムラが出来、治める人と人民が分化し、ムラとムラの間で水争いや土地争いが起こり始めます。鍛冶屋は農具を作っていましたが、戦争のための武器を優先的に作るようになり、魏志倭人伝には「倭の国乱れる」と記されるようになりました。



鎮座祭は  
11月8日です。



南宮大社に掲げられた  
刀鍛冶の絵馬

南宮大社：祭神、金山彦根命、鉦山、金属、精錬の神。  
古代、製銅、製鉄の地として栄えた。

### 参考資料

倭人と鉄の考古学 村上恭通 青木書店 1999年  
技術の考古学 潮見 浩 有斐閣 1988年

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>  
<http://www.kanamonoya.co.jp/ryouyou@memenet.or.jp>

むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください！！